

## 原発事故と食の安全（8）

昨年4月、チェルノブイリ原発事故から25年目に、ウクライナ政府が健康実態調査を発表しました。32万人の新生児のうち、正常・健康に生まれたのは22%(1992年)でしたが、2008年では6%に低下しています。またチェルノブイリから140km離れた低線量汚染地域(0.5~5ミリシーベルト/年)のコロステン市では、小・中・高一貫校で、正規の体育の授業を受けられるのは、485人中14人だけだといっています。汚染地帯で生まれ育った第2世代は、78%が、白血病、白内障、甲状腺ガン、心筋梗塞、狭心症、脳血管障害などの慢性疾患を持つに至っています。そして、これらの原因は、牛乳、肉、きのこ、ベリーなどの食べ物からの内部被曝なのです。ベラルーシの元ゴメリ医科大学長のバンダジェフスキー氏は、多数の病死者の心、腎、肝などに蓄積した放射性セシウムを調べ、低線量内部被曝で発病することを証明しました。45.4ベクレル/kgの放射性セシウム汚染で突然死した人の心筋細胞は、顕微鏡で見るとズタズタに切断されています。彼は、低線量被曝は問題ないとする政府の見解に反した為、職を解かれ、投獄されました。

ECRR(欧州放射線リスク委員会)のクリス・バズビー氏は、東京の知人宅の室内エアコンフィルターから11万ベクレルを超える汚染を測定したと発表し、また、太平洋への放射能汚染は深刻で、大地と海の汚染により多くの生命が危機に瀕していることを訴えています。

私たちは、これらの報告から学び、被害をできるだけ少なくする為に、あらゆる手立てを尽くさねばならないと思います。放射性物質は、不拡散が原則です。これ以上、汚染を広げることはやめてほしい。ガレキの押し付けや、規制値のゆるい魚粉、米ヌカ、腐葉土、ワラ、木くずなどから作る有機肥料や飼料による汚染拡大を防いでほしい。O-リングテストによると、意外な物や場所から、放射性セシウム汚染の強いものがみられます。アイナメの3万ベクレル超のニュースもありました。生物濃縮はかなり進んでいると思います。

汚染度の高いものを食べて再発したり、新たに発症したりする人が後をたちません。症状も多彩で、筋肉の痛みやだるさ、骨の痛み、頭痛、血尿、鼻血、蛋白尿、皮疹、痒みなど…、また、よく風邪をひくようになったとか、風邪が治りにくいなど、免疫力の低下も考えられます。何もせずにいると、ウクライナ政府の報告にあるように、“病気のデパート”のように進んでいくのではないかと思います。まず食物の除染をすること（塩を入れてゆがく）が基本、善玉菌を増やして放射性セシウムの吸収を防ぎ排泄する力を強めること、活性酸素を分解する酵素SOD活性の高いものを取り入れること（アカメガシワ、チャーガ、ビタミンCなど）、野菜や果物などカリウムの多いものを取り入れること、安全な食物かどうかを自分でチェックできるようにできるだけO-リングテストを身に付けること、睡眠不足にならないように規則正しい生活リズムを守ること、食生活でも免疫力を高めるように工夫して下さい。

そして、一番大事なのは、すべての原発をただちに廃炉にしていくことです。地球の放射能汚染と膨大な核のゴミ、これ以上ない負の遺産を子や孫や未来の人間に託さざるを得なくなりました。“たかが電気のために”原発54基も。余りにも迂闊だった私たち大人の世代として、これ以上の放射能汚染を防ぐ為に、頑張りたいと思います。